令和6年度　大田区立東糀谷小学校　自己評価　報告書

○　本校の概要　　令和7年3月5日

児童数366人、学級数16（通常の学級12、特別支援学級4）、教職員45名から成っている。開校86周年を迎え、地域の拠点としての役割を期待されている。
・児童は、明るく、元気よく学校生活を送っている。学校経営方針の核として「楽しい学校」を目指し「こどもを育てる学校から、こどもが育つ学校」をスローガンに取り組んでいる。自分で考え、自分の言葉で表現することが苦手な児童が多い。⇒本校の重点課題として取り組んでいく。
・教員は基礎学力の向上「分かる・できる」授業づくりに向けて、ICT機器の活用、特にタブレット端末を活用し、児童の意欲関心を引き出す授業改善に取り組んでいる。 生活指導では「他人のことを心から考える児童」を育てるために、心の教育を日常的にに繰り返し指導している。
・コミュニティスクールとして地域・保護者・学校が一体となり教育活動を展開している。 研究実践校として、新教科「おおたの未来づくり」を校内研究にして取り組んでいる「地域を見つめ　地域に学び　地域に還す　東糀谷の未来のまちづくり」をテーマに地域と一体となって取り組んでいる。今年度は、6年生と町会と協働して東糀谷夏祭り」を開催した。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	「自分で考えて　自分で行動する」の取組結果の児童の割合。 4:80%以上。 3:70%以上。 2:60%以上。 1:60%未満。	4:3人 3:15人 2:2人 1:0人	B	全校朝会で校長からの講話 5・6年生「おおたの未来づくり」での実践 1～4年生学級活動「会社企画」の実施　今後は、教員研修の充実を図る	A B C D	3 10 0 0	おおたの未来づくりにおける夏祭りでは、自主的に企画・運営ができていた。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
個別目標2 世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	英語の授業が楽しいと答える児童の割合 4　90%以上 3　80%以上 2　70%以上 1　70%未満	4:3人 3:13人 2:4人 1:0人	B	学級担任とALT・外国語担当教員での授業案の構築　今後は羽田中学校との連携	A B C D	2 10 0 0	外国語の授業は日本人教師と外国人講師の役割分担ができている。児童が楽しく取り組んでいる。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2							
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	「自分がされて嫌なことはしない・言わない」の取組結果の児童の割合。 4:70%以上。 3:60%以上。 2:50%以上。 1:50%未満。	4:2人 3:16人 2:2人 1:0人	B	全校朝会で校長からの講話 道徳を核とした学級経営　学期に1回の人権週間　今後は代表員会による取り組みや児童集会での児童による呼びかけを充実していく。	A B C D	0 13 0 0	道徳を核にした学級経営は重要だと思う。健康教育や生活習慣についてもっと家庭や地域と連携した取組ができるとよい。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標4 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	授業の原則10か条を意識して取り組んだ教師の割合 4　90%以上 3　80%以上 2　70%以上 1　60%未満	4:4人 3:6人 2:9人 1:1人	B	教員研修　校内研究　管理職による毎週のレポート自主研修　今後は校内授業検定の実施	A B C D	1 12 0 0	先生方が意欲的に研修や授業改善に取り組んでいる。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標5 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	ユニバーサルデザインを生かした授業を1日1回以上行っている教員の割合。 4:75%以上。 3:60%以上。 2:50%以上。 1:50%未満。	4 10人 3:10人 2:0人 1:0人	B	教員研修　校内研究　管理職による毎週のレポート自主研修　今後は講師を招聘し分析・検証を実施	A B C D	4 9 0 0	いじめの初期対応により重大事案の未然防止が図れていた。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		④おおたの未来づくりの授業を通して、児童が自分で考え、行動する力を高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	4							
個別目標6 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	・ICT機器を活用した授業を各学級が行った平均回数。 4:毎月10回以上。 3:毎月8回以上。 2:毎月6回以上。 1:毎月6回未満。	4:3人 3:8人 2:7人 1:2人	B	教員研修　校内研究 今後は、教員研修の充実を図る	A B C D	4 9 0 0	月初めの一週間を情報モラル週間とし、アプリを使って児童の情報モラルを高めているのはよい。継続や繰り返しにより刷り込むことが大事である。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③月初めの一週間を情報モラル週間とし、アプリを使って児童の情報モラルを高めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
個別目標7 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	地域行事やPTA行事に1回以上参加した教員の割合。 4:90%以上。 3:80%以上。 2:70%以上。 1:70%未満。	4:15人 3:2人 2:3人 1:0人	B	おおたの未来づくりの地域創生を重点化　全教職員で参画する意識の醸成　今後は、学校地域支援本部からの働きかけを行う。	A B C D	8 5 0 0	おおたの未来づくりに核とした地域連携が前進した。持続的発展を期待する
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2							
		④各学年の教育活動において、地域学校協働本部（ワクワクサポーター）と連携した安心・安全な取組を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。